

横浜国道事務所でのインフラDX(デジタルトランスフォーメーション)の取組

インフラDXとは、インフラへの国民理解を促進すると共に、安全・安心で豊かな生活を実現のため、データとデジタル技術を活用し、国民のニーズを基に社会資本や公共サービスの向上と、建設業界以外のインフラ関連産業の拡大により、業務、組織、プロセス、建設業や国土交通省の文化・風土や働き方を変革することです。

インフラ分野のDX(業務、組織、プロセス、文化・風土、働き方の変革)



横浜国道事務所では、インフラDXの中核の取組である、「i-Construction」を推進し、建設現場の生産性向上に取り組んでいます。

- ①ICT施工の実施(ICT地盤改良工、ICT土工等)
- ②橋梁上部工事にてBIM/CIMを活用し、架設計画の確認や設計照査の効率化

MR機能(複合現実)を活用した架設計画の見える化



3次元モデル(CIM)をMR機能を用いて現地空間に投影し、架設計画を可視化
これにより、架設計画の妥当性や安全性を実寸大で目視確認ができ、作業員への工事理解度が向上

3次元モデルを活用した効率的な照査



3次元モデル(CIM)を用いて、従来の2次元図面では確認が困難な、部材同士の取り合いや干渉を視覚的に確認が可能
これにより、設計の見直し時間の短縮や、施工の手戻りを無くし工期の短縮が可能